



3月も今日は8日目。冬のあいだ草木は根を残し、そこだけに生命を集めて冬を越します。根に凝縮された命が、土のなかで眠るのです。巡り来る春をこれほど確信し、予見しているものがほかにあるでしょうか。春の到来をいささかでも疑う我が身には、まねのできることはないのです。



大阪府教育委員会は、2021年度の大阪府公立高等学校一般入学者選抜の確定出願状況を発表しました。確定出願状況によると、全日制課程普通科（単位制高等学校を除く）を設置する高等学校は、普通科が募集人員2万969人に対し23,594人が出願し、競争率は1.13倍。専門学科は募集人員8,914人に対し9,680人が出願し、競争率は1.09倍となっています。同一選抜において複数科などで選抜を実施する高等学校については、第1志望で不合格となっても、第2志望で合格する場合があるため、競争率の算出には学校全体の出願者数を用いています。

全日制の課程で専門学科のみを設置する各学校の出願倍率は、千里（国際文化および総合科学）1.16倍、泉北（国際文化および総合科学）1.29倍など。文理学科の出願倍率は、北野1.33倍、大手前1.25倍、高津1.43倍、天王寺1.23倍、豊中1.53倍、茨木1.53倍、四條畷1.38倍、生野1.31倍、三国丘1.40倍、岸和田1.14倍となっています。

一般入学者選抜は今後、3月10日に学力検査などをおこない、3月18日に合格が発表されます。

さて、この新聞発表を見てあなたは何を思いますか。競争倍率は高いところでも1.53倍。低いところでは1.07倍というところもあり、なんてことはないと思う人があるかもしれませんね。たしかに数字から見ると、びっくりするほどのものではないように見えます。ほんの少しの人しか不合格にならないではないか・・・よほど運が悪ければその中に入ってしまうけど、たぶん自分は大丈夫だろう・・・しかし、よく考えてみてください。入試は確率の問題ではありません。運がよいとか悪いとかそういう問題でもありません。倍率は低いかもしれませんが、それぞれの高校にはほぼ同じくらいの能力の人が集中しますから、1点が明暗を分ける場合もあるのです。

そして、このようなきびしい受験に向けて、いよいよ「あと1年」だということ。この「あと1年」という時間をどのようにとらえるかによってこれからの過ごし方が大きくかわります。「まだ1年もある」と考えるのか「あと1年しかない」と考えるのか・・・いずれにしても、きびしい現実が待ち受けていることにちがいはありません。さあ、めぐりくる来年の春を確信し、草木のように、今はただ命の力をしっかり凝縮することが大切なのではないでしょうか。

なお、各高等学校の詳しい倍率などについては、別紙にて教室に掲示しています。

一般入学者選抜では普通科や文理学科など、多くの学科で定員の全てを募集。内申点と5教科の学力検査点を合計した総合点をもとに合否判定が行われる。

全ての受検生が5教科（国語・社会・数学・理科・英語）の学力検査を受ける。5教科のうち国語・数学・英語の学力検査問題は、難度別にそれぞれ3種類作成され、どの問題を実施するかは各高校が選択する。

内申点と学力検査点の比率は3：7、4：6、5：5、6：4、7：3などのパターンの中から各高校が選択する。ボーダーゾーンの合否判定に自己申告書や内申書の「活動／行動の記録」の記載内容も資料として用いられる。

募集人員を学科ごとに設定している高校では、第1志望・第2志望など、複数の学科を志望することができる。

新型コロナへの警戒を緩めるわけにはいかない。保護者の出席は人数を制限し、来賓はゼロ、後輩たちは電子黒板の映像で教室から式の様子を見守り、校歌は録音を流しました…と教頭先生が教えてくれた▲「密」を避け、飛沫を嫌い、学校から歌声が消えたこの1年。誰にも経験のない“高校最後の1年”は、いつかこの世代だけの財産になるはずだ、といま書くことが何かの足しになるのだろうか、と迷いながら▲マスク姿の記念撮影、顔の上半分はしっかり笑えただろうか。門出の日、いい天気でもよかった。

|

|